

令和 4 年度 園評価書

園番号

46 園名

清水こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている、C : あまりできていない、D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)	
意欲的に取り組む子	思いを伝え合いながら意欲をもって遊ぶ	自分から主体的に遊びを選択し、探求しながら夢中になって遊ぶ	好きな遊びがすぐにできる環境が整えられ、子ども達の遊びから予測した道具や環境を用意したことで意欲的に遊ぶ姿が多い	A	A	・子ども達の様子が生き生きとしていて、大きな成長が見られた	自ら主体的に遊びを選択し、じっくりと遊べる環境を整える。試行錯誤を繰り返し「もっとやってみよう」につながる環境の再考をする
		自分の思いを自分なりの言葉や態度で表現し、自信をもって伝える	子どもの思いや言葉を肯定的に受け止めていった。思いの出し方は様々だが、その子なりの表現で思いを伝えている	A	A	・乳児組の子ども坂が上がったり、降りたりし、あきらめない気持ちがあふれている。意欲を引き出す環境が工夫されている	子どもの思いに寄り添い、丁寧に受け止め、思いが伝わる喜びがたくさん経験できるようにする
		友達の思いに気づき、心を通わせながら遊びを広げる	思いの違いから言い合いもあるが、友達と一緒に遊ぶ楽しさは感じ、友達の良さを認めたり受け入れたりする姿がある	B	B	・3歳以上は群れて育つ、その中でのトラブルは当たり前。トラブルを解決していく力を育てることが大事。今後も先生達はトラブルを大切にしていって欲しい	園児一人一人の思いに寄り添って関わり、個の遊びでの充実を図る 自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞きながら遊びが広がるような環境や保育者のかかわりをする

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	発達をおさえ、活動のねらいを明確にし”もっとやりたい”を支える環境を工夫する	子どもの発達、興味に合わせた環境を工夫している。とっとき棚の配置、活用を意識したことで明日もやりたいという思いにつながった	A	A	・幼児組になると遊びの中で思考力が育っている 色水遊びや泥を使つてのチョコレート作りなど、子どもたちは自分の思いのまま作っているようだが、その中には先生達が緻密に場の設定をしていることがわかる。凍らせたり、片栗粉を絵具と混ぜたり、化学的な思考も遊びの中で生まれている	各学年の遊び構想や環境図を共有し、ねらいを明確にしながら興味・発達にあった遊びを保障していく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	家庭と連携し、個々の健康状態や生活リズムに合わせて、安心して園生活が送れるようにする	朝の受け入れ時に、直接保護者から体調を聞き、担任への伝達を確実に行情報共有をし、安心して過ごす事につなげている	A	A	・事故やケガをあまり気にしすぎてしまうと子どもの遊びが小さくなってしまふ。やってみたくて自分から経験することで子どもは育っていくし、そこを見た保護者もうれしいのではないかと	受け入れ時の聞き取りや連絡ノートを使って家庭と連携し、個々の健康状態や生活リズムに合わせて安心して園生活が送れるようにする
	(3)環境を通して行う教育及び保育	わくわくを叶えるために、遊びの広がり、継続につながる環境の再考をする	わくわくを叶えるために環境を見直したり、各クラスでの遊びに必要な物、場所の設定など、昼ミーティングや会議で話し合いを工夫している	A	A	・職員が自信をもって働いているというのはとても良い職場であり、風通しの良い人間関係がひいては子どもの安心安全につながっている	わくわくを叶えるために一人一人の楽しんでいることをしっかり見取り、遊びの広がり、継続につながる教材研究や環境の工夫・再考をしていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	複数の目で園内外の点検、改善をすると共に事故やケガの事例を検証する	ヒヤリハットや昼打ちでケガ報告など危険なことについて共有している。毎月、複数の職員で安全点検を行い速やかに改善している	A	A	・職員が自信をもって働いているという	園内外の点検・改善や事故・ケガの検証をし、速やかな改善をし、安心安全な保育環境を整えていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	病気や感染症に対する感染予防の仕方を丁寧に知らせ、衛生習慣が身につくようにする	手洗いポスターや曲を使うことで、手洗いを丁寧にやる姿が増えているが、トイレ後の手洗いには個人差があるので見届けを行っていく	B	A	・職員が自信をもって働いているという	発達に合わせた衛生習慣が身につくよう絵本やCDなども使い感染症の拡大防止に努める
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	特別支援教育保育活動(ミッキー活動)の取組内容を改善し加配担当者会議(ミッキー会議)において支援の検討をしスキル向上を図る	ミッキー活動では支援児がのびのび活動している。加配担当以外の職員も順番で参加し、情報共有につながっている。ケース会議を行うことで支援方法の検討、共有ができた	A	A	・今までコロナでできなかったこともあるが、これからはwithコロナになる時代。どこで折り合いをつけるか工夫していかなくてはならない	加配担当者会議の中で、支援の方法を検討しスキル向上を図る ミッキー活動の取り組み内容・グループ分けなどは時期やねらいと合わせて考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	分掌を中心にPDCAサイクルを継続的、安定的に実施し、情報を共有する	分掌を中心に随時情報を共有しながら、円滑な園運営ができている。避難訓練、不審者訓練後当日に反省をしあうことで、課題が明確になっている。記録を写真にすると共有しやすい	A	A	・今年、こども園の中堅職員の研修で授業参観や意見交換会があったり、園長先生に4年生にむけて福祉についての学びの場で、こども園について話をいただいた。今後も、小学校とこども園の職員同士の意見交換や交流の場を大切にしていきたい。子ども同士の交流についてもwithコロナの中で工夫していきたい	同僚性を発揮し、分掌を中心にPDCAサイクルを継続的・安定的に実施し、園運営を行い組織体制の充実を図る
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修部を立ち上げ研修体制の強化を図り組織的な園内研修をすすめ、月の振り返りや公開保育の事後研修ごとに手立ての有効性の検証をしていく	研修部会議で経験年数に関わらず、どの職員にもわかりやすい議題を精選し研修会では意見が言いやすい雰囲気作りをしている。公開保育時には事前に各歳児のわくわくについて仮説を立て、視点をもって参観し、事後研で検証し学びを共有できた	A	A	・昔は支援センターで子育てサロンを行っていたが、今のように各こども園でおしゃべりサロンを開くことは、地域に暮らす子育て世代を支えることにつながっていて良いと思う。まだ園に入っていない親子が園に来て話をする場があるだけでもすごく意味のあること、こども園が地域の中で大切な役割になっている	組織的な園内研修をすすめる中で焦点化した意見交換、限られた時間の中での学び合い、PDCAの確立をし清水スタイルの構築をしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	子どもの興味や保育者の願いから遊び環境図を毎月見直し、共通理解の中で遊びの拠点を作り環境を整える	毎月の会議の中で遊びの環境を共有する時間があり、子どもの興味、関心も毎日の昼ミーティングで共有され各歳児の遊びが見えやすい	A	A	・昔は支援センターで子育てサロンを行っていたが、今のように各こども園でおしゃべりサロンを開くことは、地域に暮らす子育て世代を支えることにつながっていて良いと思う。まだ園に入っていない親子が園に来て話をする場があるだけでもすごく意味のあること、こども園が地域の中で大切な役割になっている	子どもの興味、関心をもとに環境を工夫し、タイミングよく再構成を行い一人一人の やってみたいという思いを支える
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	写真やボードで園の取り組みを可視化したり、速報的におたよりを出し、子どもの育ちや保育者の意図を丁寧に発信していく	毎日のボードでは効果的なコメントや写真を使い、保育のねらいや子どもの遊び(学び)を伝えられている。送迎時、話しをする事が難しいので面談等も考えている	A	A	・昔は支援センターで子育てサロンを行っていたが、今のように各こども園でおしゃべりサロンを開くことは、地域に暮らす子育て世代を支えることにつながっていて良いと思う。まだ園に入っていない親子が園に来て話をする場があるだけでもすごく意味のあること、こども園が地域の中で大切な役割になっている	必要に応じて個人面談を行ったり、写真ボードで園の取り組みを可視化し、わかりやすく子どもの育ちや保育者の意図を発信する
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	小学校へのスムーズな移行に向けて、小学校の活動を見学したり、学校環境を利用した取り組みを実施する	子ども同士の関りは難しいが、職員が授業参観に行ったり、小学校の先生に公開保育に来て頂き、意見交換はできた	B	B	・昔は支援センターで子育てサロンを行っていたが、今のように各こども園でおしゃべりサロンを開くことは、地域に暮らす子育て世代を支えることにつながっていて良いと思う。まだ園に入っていない親子が園に来て話をする場があるだけでもすごく意味のあること、こども園が地域の中で大切な役割になっている	小学校との円滑な接続に向け、アプローチカリキュラムの見直しや公開保育に小学校の先生に来て頂いたり小学校の授業を参観させてもらったり交流を進める
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	近隣園との交流を通し、同じ地域の子ども同士のつながりを広げる	商店街の七夕イベントに笹飾りを飾ってもらったり、蔵を見せてもらったり、地域の文化に触れることができた。川原こども園との交流を1月、2月に実施しとても楽しい経験となった	B	B	・昔は支援センターで子育てサロンを行っていたが、今のように各こども園でおしゃべりサロンを開くことは、地域に暮らす子育て世代を支えることにつながっていて良いと思う。まだ園に入っていない親子が園に来て話をする場があるだけでもすごく意味のあること、こども園が地域の中で大切な役割になっている	地域の資源や地域の方との関わりを通し、本物に触れる経験をしたり、聖母保育園、川原こども園との交流を計画的に行い、同じ地域の子ども同士のつながりを広げる